一般社団法人　富山県理学療法士会

TPTA

会報 とやま

平成29年度

No. 2

（通算146号）

総会員数835名（休会70名）

全177施設

今号の内容

理事会報告 ……1
行事報告……2〜4
役員紹介……5〜6
専門領域紹介……7〜8
新入会員紹介 ……9〜13
研修会報告……14〜18
地区連絡会だより……19〜21
リレーエッセイ……22
賛助会員名簿・編集後記……23

理学療法週間

理　事　会　報　告

平成29年度 第２回 理　事　会　報　告

日　時：平成29年5月22日（月）
場　所：富山市民病院 作業療法室
出席者：堀尾　滝田　酒井　大野　森田
柴田　池田　仲川　飯島　沼田
石黒　竹中　中島　宮原
書記：愛場

＜報告・検討事項＞

1．総会の議案（事業報告・貸借対照表・補正予算書・会費規定の変更・理事の補充）について確認・修正を行った。
2．平成30年度富山県で開催されるねんりんぴっくについて富山市より協力要請があり、今後県士会として組織編成を検討していくことなった。
3．日本理学療法士連盟より広報誌の作成を行っていると報告をした。
4．東海北陸役員会が開催され、各県の状況について報告をした。
5．社会事業局よりH29年富山市自立支援モデル事業への協力について報告がなされた。
6．富山県高齢福祉課より地域医療研修会に多くのリハビリ専門職の方に受講について依頼あり。
7．東海北陸理学療法学術大会について進捗状況の報告がなされた。
8．生涯学習制度について、今後のシステムについて検討内容等が報告された。
9．介護福祉士会全国大会の開催が富山県で開催され、広報事業部で対応されることとなった。

平成29年度 第３回 理　事　会　報　告

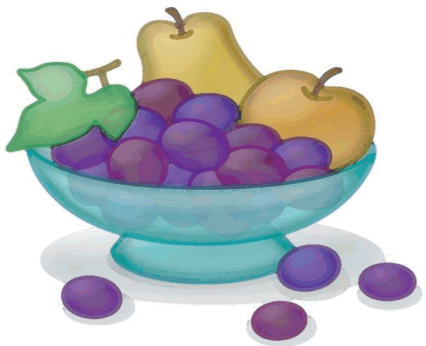
日　時：平成29年6月25日（日）
場　所：富山県総合福祉会館
サンシップとやま
出席者：堀尾　滝田　酒井　森田　仲川
柴田　飯島　沼田　大野　山口
池田　石黒　中島　宮原（書記）

＜議　　案＞

●平成29年度第1回補正予算について：以下の補正予算について、報告される。議長が議場に諮ったところ、全員一致をもって可決確定した。
1．平成28年度決算
2．介護福祉士会全国大会の新規事業（広報事業部）

＜検討・報告事項＞

●ねんりんぴっく準備委員会について：富山県、富山市からの協力依頼があり、今後の審議事項となった。
●事務局：新人歓迎会を福利厚生部が企画を進める。
●学術局：学術誌について、学術資料部が検討を進める。
●社会事業局：富山市から、自立支援事業の委託を受け対応中である。



行事報告

第22回富山県理学療法学術大会を終えて

第22回富山県理学療法学術大会　大会長　赤　尾　健　志

平成29年6月25日（日）富山県総合福祉会館サンシップとやまに於いて、第22回富山県理学療法学術大会を行いました。大会テーマには、「挑戦と成長」を掲げ、今後の超高齢化社会を乗り切るべく、我々理学療法士が新しいことに挑戦していく必要を強調しました。

大会長 基調講演

基調講演では、チーム医療と予防リハビリテーションを取り上げました。まず、チーム医療については、増加する超高齢者の周術期のリスク管理を例に、医師や看護師、臨床工学技士等とチームを組んで早期に安全に離床を進めていく必要性を報告しました。次に、予防リハビリテーションについては、健康寿命を延ばすために重要な啓発活動として、病気や骨折をしない体力づくりや生活の仕方を積極的に指導する介護予防や骨折予防の取り組みを紹介しました。

特別講演では、畿央大学大学院健康科学研究科教授　今北英高先生に、「挑戦と成長　基礎から臨床へ　教育から臨床へ」という内容で御講演いただきました。先生は研究者として、様々な疾患のラットを用いて、運動負荷を与えることでどのような効果が見られるかについて、運動生理等の基礎を示しながら、普段の臨床に通じる知見を分かり易く説明してくださいました。また、教育者として、インターネット等のＩＴ技術を用いることで、世界中で理学療法教育が可能になることや理学療法の手法が共有できることをとりあげ、これからは世界で活躍できる理学療法士が必要だと今後の展望について熱く講演いただきました。

特　別　講　演

演題発表風景

一般演題では、当初の予想を上回る多くの演題が集まり、急遽会場を2会場に分けて行いました。どの会場でも活発な質疑応答が行われ、今後の理学療法の発展を期待させるものでした。

振り返ってみれば、今学術大会は167人という非常に多くの方の参加により大盛況に終わりました。これからの富山県理学療法士会の更なる成長と飛躍につながる学術大会であったと考えます。最後に、本学術大会開催にあたり、ご協力いただいた関係各位・実行委員の皆様に、心から感謝申し上げます。

学術大会 会場

理学療法週間事業

広報事業部　部長　山村　翔太

平成29年７月９日（日）にイオンモールとなみ１Fバルーンコートにおいて、理学療法週間事業として、理学療法（士）の紹介活動を行いました。理学療法（士）の宣伝用に県士会ロゴと理学療法の日をプリントした風船を会場付近にて配布し集客を図りました。開催日が休日ということもあり、家族連れを中心に風船への反応は良く、数多くの方に足を止めていただきました。

イベント風景

イベント内容としては、測定コーナー（血圧、体重（体脂肪）、握力、片脚立位時間）、相談コーナー、体験コーナー（車椅子試乗など）を設営しました。

測定コーナーでは、血圧、体重（体脂肪）、片脚立位、握力の測定を行いました。各測定では、参加いただいた方の数値を年齢別の平均値と比べ、生活・運動指導などを行いました。

相談コーナーでは、進路相談やリハビリ相談を受付けました。進路相談では、高校生のお子様を持つご家族から進路について複数の相談を受け、将来理学療法士を志す高校生の多さを実感しました。リハビリ相談では、膝や腰の痛みなど整形外科的な痛みの訴えが多く聞かれたため、日常生活における注意点などの指導を行いました。

車椅子試乗などの体験コーナーでは小野医療器株式会社様のご協力のもと、車椅子や杖などを展示しましたが、その中でも「パーソナルモビリティ 次世代型電動車椅子 WHILL」という電動車椅子が普段目にすることのない物であったため、来場者の方々の目を引いていました。私自身初めて見る物であったので興味のある方は調べてみてはいかがでしょうか？

会場にて広報物を配布していたところ、通りがかりの方から声をかけていただけることもあり、理学療法士に対する職業認知は、徐々に高まっていると感じました。今後は他県で開催している理学療法週間事業の取り組みを参考にしながら、より有効な啓蒙活動となるよう検討したいと思います。

最後になりましたが、今後とも士会員皆様のご理解ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

理学療法週間に関わったスタッフ

第24回日本介護福祉士会全国大会・第15回日本介護学会に参加して

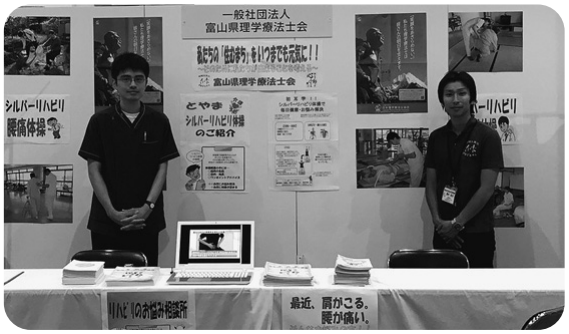
広報事業部　部長　山　村　　翔　太

平成29年7月15日（土）～16日（日）に富山県民会館にて開催された第24回日本介護福祉士会全国大会・第15回日本介護学会で、富山県理学療法士会としてブースを出展し、とやまシルバーリハビリ体操の紹介やリハビリ相談を行いました。来場者は本学会に参加した介護福祉士が主でしたが、会場となっている富山県民会館に足を運んでいた地域住民の方にも同様の内容にてPR等を行いました。

とやまシルバーリハビリ体操の紹介では、数年前に作成したとやまシルバーリハビリ体操のパンフレットを用いて体操の特徴や利点を紹介し、来場された介護福祉士の方が勤務しておられる病院や施設での実施を提案しました。

介護福祉士の方からのリハビリ相談もいくつかあり、日常業務で我々理学療法士と関わる機会が少ない方にとっては良い機会を提供することができたのではないかと感じました。

シルバーリハビリ体操の解説



介護保険事業部長　屋木先生（右）と
広報事業部部長　山村先生

本学会は、介護福祉士における全国レベルの学会であり、介護福祉士以外の医療職種でブースを出展していたのが当士会のみであったこともあってか数多くの方に足を止めていただき、2日間合計で200名近くの方にとやまシルバーリハビリ体操の紹介などを行うことができました。

来場していた県内在住の介護福祉士の方にもとやまシルバーリハビリ体操の紹介を行いましたが、体操への認知度はまだそれほど高くないと感じました。この学会に関して、来年度は別の都道府県での開催が予想されますが、このような機会があれば積極的にとやまシルバーリハビリ体操の紹介を行っていくことが必要だと感じました。

最後になりましたが、今後とも士会員皆様のご理解ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

平成29年度富山県

監事
増山　智
（富山県立中央病院）

監事
寺田　一郎
（厚生連高岡病院）

副会長
滝田　正樹
（富山市民病院）

会長
堀尾　欣三
（南砺市民病院）

事務局

局　長
酒井　吉仁
（富山医療福祉専門学校）

担当理事
大野　愛美
（富山県リハビリ病院・こども支援センター）

事務部

担当理事
部　長
宮原 謙一郎
（富山医療福祉専門学校）

財務部

部　長
松野　晃久
（黒部市民病院）

福利厚生部

部　長
木内　彰
（富山県リハビリ病院・こども支援センター）

情報管理部

部　長
笹川　尚
（黒部市民病院）

学術局

局　長
仲川　仁
（山田温泉病院）

担当理事
石黒幸治
（富山大学付属病院）

専門領域研究部

部　長
舟坂　浩史
（八尾総合病院）

学術資料部

部　長
竹内　悦子
（射水市民病院）

教育局

局　長
池田　裕哉
（八尾総合病院）

担当理事
中島　隆興
（富山県立中央病院）

研修管理部

部　長
布上　隆之
（野村病院）

生涯学習部

部　長
高田　厚志
（富山県リハビリ病院・こども支援センター）

地区連絡会代表

新川
若島　正勝
（あさひ総合病院）

中部
土肥　仁美
（厚生連滑川病院）

富山北部
梅野　　晃
（富山県リハビリ病院・こども支援センター）

富山中央
里崎　賢人
（きたがわ整形外科医院）

富山南部
浦上　考徳
（友愛温泉病院）

高岡
水上　正樹
（金沢医科大学氷見市民病院）

理学療法士会 役員紹介

副会長
酒井　吉仁
(富山医療福祉専門学校)

今回は役職・氏名・所属の紹介のみにさせていただきました。

職 能 局

局　長
森田　忠秀
(西能クリニック)

担当理事
竹中　誠
(アルペンリハビリ病院)

業務推進部

部　長
竹中　誠
(アルペンリハビリ病院)

医療・介護保険部

部　長
城前　美奈
(かみいち総合病院)

障害福祉部

部　長
坂田　信行
(志貴野長生寮)

砺波
竹林　高弘
(北陸中央病院)

社会事業局

局　長
山口　城弘(高岡市民病院)

担当理事
沼田　秀人(厚生連高岡病院)

福祉事業部

部　長
林　香織(北電産業)

小児福祉事業部

部　長
船木 美樹子
(富山県立中央病院)

保健事業部

部　長
渡辺　逸平
(富山県立中央病院)

介護保険事業部

部　長
屋木　佑介
(アルペンハイツ)

スポーツ支援事業部

部　長　**梅野　　晃**
(富山県リハビリ病院・こども支援センター)

広 報 局

局　長
柴田　浩之(市立砺波総合病院)

担当理事
飯島　忠雄(矢野神経内科)

発 行 部

部　長
荒木　悦子
(富山県リハビリ病院・こども支援センター)

広 報 事 業 部

部　長
田中　正康(南砺市民病院)

理学療法啓発部

部　長　**里崎　賢人**
(きたがわ整形外科医院)

【専門領域研究部】

専門領域研究部では７つの研究会にわかれ、それぞれの研究会が知識、技術向上を目的に研修会を企画・運営しています。また各研究会で勉強会、研究活動も行っています。どの研究会も活発に活動していますので、興味があればぜひ参加してください。

具体的にどのような活動をしているか一度見学してみたいという方は下記の連絡先まで連絡ください。

専門領域研究部　部長
八尾総合病院　リハビリテーション科　**舟坂　浩史**
Tel：076-454-5000　　Mail:riha@yatsuo.or.jp

【物理療法研究会】

代表　**石橋　信志**（大沢野クリニック）

物理療法研究会では、各学会発表での演題発表を中心に活動しており、そのためのバックアップも研究会員で行っています。当研究会では県士会員の皆様に物理療法の有効性を広く知っていただくために研修なども企画しています。

物理療法に興味のある方は是非、研究会・研修会へお越しください。お待ちしております！

【生活環境支援系研究会】

代表　**新　　清浩**（金沢医科大学氷見市民病院）

生活環境支援系研究会は、住宅改修や福祉用具、地域における活動についてなどの研修会の企画・運営や、研究部内での勉強会を行っています。昨年度の研修会は「地域包括ケアシステムの正体」のテーマで株式会社アール・ケア代表取締役の山根一人先生に講義して頂きました。

会議や勉強会の実施場所は主に呉西地区です。在宅支援や地域リハなどに関わる情報交換や疑問・問題点の共有や相談の場としても活用できればと考えています。

ご興味のある方は、是非お気軽に当研究会にご参加ください。

【内部障害研究会】

代表　**坂井　俊介**（高岡ふしき病院）

内部障害研究会は、循環班と呼吸班に分かれて定期的に勉強会等の活動を実施しています。さらに年に１度、合同で呼吸・循環セミナーを開催しています。本年度のテーマは「呼吸・循環領域における動向と評価」です。呼吸・循環器領域における基礎的な講義が中心となります。興味のある方は是非ご参加ください（詳細は県士会 HP にて）。

循環班・呼吸班ともに新風を吹き込んでくださるメンバーを随時募集中です。今年度はすでに数名の入会がありました。新しく内部障害の勉強をしてみたい方、興味のある方は、気軽にご参加ください。

究会の紹介

【基礎系研究会】

代表　林　　竜三（厚生連高岡病院）

基礎系研究会の活動は、分野にかかわらず、理学療法を行う上での基本的な知識・技術の習得を目標にしています。様々な研修会を企画しており、多くの知見を取り入れるようにしています。また、研究会内での勉強会も行っています。勉強会では新人や若手理学療法士でも参加しやすい内容となっています。治療を行う上で必要な評価や技術、そして考え方を学んでいきます。

基礎的な部分から一緒に勉強していただける方、興味のある方は当研究会にご参加ください。

【教育管理研究会】

代表　田中　　勝（富山医療福祉専門学校）

教育管理研究会では、社会のニーズに応えられるように、理学療法の質の向上を目的とした卒前・卒後の理学療法教育やマネジメント等に関する研究支援、研修会を開催しています。

今年度は、在宅医療の人材育成のためのリハビリ専門職を対象とした「富山県在宅医療研修会」を開催いたします。

一緒に企画、運営、研究していただける方、研修会への参加者を募集しています。

【神経研究会】

代表　武田　好史（八尾総合病院）

神経研究会は、毎年著名な外部講師を招いての研修会の企画・運営を中心に、企画委員内での勉強会などを年 6 回程度行っています。今年度は研究会メンバーも数名増えたこともあり、従来の活動内容を見直ししてそれぞれの知識や技術を高めることにも重点を置き、臨床の患者様のご協力のもと、研究会内でケーススタディーを予定しています。幅広い世代の PT や多施設の PT が所属していますので、様々な情報交換や技術交流が可能な研究会です。脳血管疾患を中心に神経系の理学療法に興味のある方は、お気軽にご参加下さい。

【運動器研究会】

骨関節班　代表　野上　静恵（八尾総合病院）

スポーツ班　代表　西野　大助（株式会社 SUDACHI）

運動器研究会は骨関節班とスポーツ班に分かれて活動を行っています。

骨関節班では企画委員での勉強会や研修会の企画を中心に活動をしています。様々な現場で活躍する PT が所属しており、勉強会や症例検討ではそれぞれの得意分野の情報交換や意見交換が行われています。どなたでも参加しやすい活発かつ和気藹々とした研究会です。

スポーツ班は、スポーツ全般に関わる知識・技術を高めていくために研修会や勉強会などを企画しています。スポーツ分野に興味があるけど普段の臨床ではなかなか関われないと思っておられる方も多いと思いますが、研究会を通してスポーツ理学療法を学んだり、スポーツ分野で活躍する PT とのネットワーク作りになればいいなと思っています。

運動器に興味のある方はどうぞお気軽にご参加ください。

新入会員紹介

平成29年度、一般社団法人富山県理学療法士会に入会された皆さんを紹介します。平成29年8月現在、当士会事務局が確認できている81名の皆さんです。顔写真は提出された方のみ掲載しています。

新川地区

丸川病院

林　耕太郎

竹林　尚樹

石田　　光

島田　朱里

富山労災病院

有澤　尚平

黒部市民病院

濵田　訓範

坂東病院

阿部　智行

あさひ総合病院

堀内　優作

高牀　夏美

吉井　勇人

池田リハビリテーション病院

増本　也実

堀　　隼斗

桶谷友里乃

桜井病院

桐　　侑輝

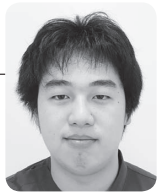
中部地区

藤木病院

高畑　知佳

串田　啓吾

杉本　勇真



厚生連滑川病院

薄田　志帆

富山北部地区

富山県リハビリテーション病院・こども支援センター

飯田　康平

堀川小百合

溝口　太仁

加藤穂乃香

中川　聡美

金谷　知晶

河上　侑紀

大石恵理子

医療法人社団尽誠会 野村病院

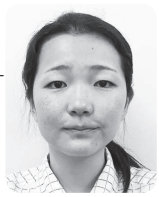
佐藤　洋平

富山県済生会富山病院

森川　宥子

医療法人社団 アルペン会アルペンリハビリテーション病院

大田　七海



鶴巻あづみ

水野　慶介

富山協立病院

数川璃沙子

佐土佳奈子

宮本　紗希

深野　凌平

富山中央地区

西能病院

山本　健太

山本加奈子

宮田　航佑

山室クリニック

北野龍之介

林　　真帆

富山赤十字病院

中島　健太

菅野慎太郎

佐伯病院

水上紗央里

島田病院

喜多加奈絵

きたがわ整形外科医院

河尻　真世

根塚整形外科・スポーツクリニック

山田　里穂

富山南部地区

おおやま病院

山本　　馨

谷口　未来

大沢野クリニック

上木　智央

山田温泉病院

清田　康介

土田　真生

西能みなみ病院

石坂　和輝

介護老人保険施設 みどり苑

川幡　優介

松森　環美

富山大学付属病院

古屋　浩太

小林　茉鈴

高岡地区

射水市民病院

宮地　竜也

厚生連高岡病院

西田　武紘

森　祐介

佐野　優華

済生会高岡病院

浅井創太郎

岸澤　啓亮

真生会富山病院

烏帽子田佳穂

旅　　賢太

老人保健施設アルカディア氷見

常林坊紘也

介護老人保健施設きぼう

荒木　　眞

特別養護老人ホーム藤園苑

田中　陽子

高岡みなみ病院

安田　智徳

太田　成実

高岡整志会病院

八田　将志

介護老人保健施設エルダーヴィラ氷見

牛島裕次郎

白石整形外科医院

馬場　夏美

介護老人保健施設長寿苑

中田　　将

いきいきサポートセンターゆめ

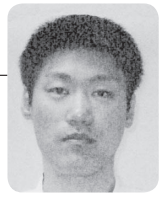
大谷　栞奈

にしの老人保健施設

古寺　悠人

北陸中央病院

尾畑　貴昭



介護老人保健施設葵の園・なんと

宮下　和也

西野内科病院

田中　郁也

市立砺波総合病院

上田　美加

篠島　佑子

研 修 会 報 告

専門領域研究部研修会

専門領域研究部　代表　**舟坂　浩史**

平成29年６月23日(金)、富山県リハビリテーション病院・こども支援センターにて「はじめよう、臨床研究part２知っておくべき研究倫理と、臨床で用いやすい統計」と題し、福井大学医学部付属病院リハビリテーション部の久保田雅史先生(理学療法士)にご講演いただきました。この研修会は、県士会の皆様に臨床研究をはじめるきっかけになればと思い、昨年度から３年計画で開催しています。今回は研究倫理と統計について分かりやすい例えを交えながら講義していただきました。終了後も参加者から非常に多くの質問があり非常に有意義な研修会でありました。

講師の久保田 雅史先生

参加者数も50名を超え、会員の皆様の臨床研究に対する関心の高さが伺えました。来年度も臨床研究についての研修会を行いますので、参加をお待ちしています。

研 修 会 風 景

専門領域研究部神経研究会主催の研修会「パーキンソン病に対するリハビリテーション」に参加して

山田温泉病院　**清田　康介**

平成29年７月２日(日)に八尾総合病院にて、富山県理学療法士会学術局専門領域研究部神経研究会主催の研修会が開催されました。「パーキンソン病に対するリハビリテーション」と題して、講師には畿央大学准助教として神経疾患に関する研究に数多く取り組んでおられる岡田洋平先生にお越しいただき、研修会が行われました。当日は47名の参加がありました。研修会では、パーキンソン病の基本的な病態の理解から始まり、無動やすくみ足、姿勢制御異常といった疾患特有の障害に合わせた評価・治療について岡田先生の最新知見を交えながら分かりやすく講義していただきました。

無動やすくみ足に対するリハビリテーション介入では、聴覚刺激や視覚刺激などの外的刺激や、動作の大きさに焦点を当てた運動療法が効果的であることを学びました。また、狭い隙間を通り抜けるときや恐怖心があるときにすくみ足が生じやすいことから、事前の環境設定が治療場面において重要な役割を担っていると感じました。

パーキンソン病は、日々の臨床で治療を行う機会が多いですが、まだまだ知識・技術ともに未熟な部分が多いです。今回の研修会では、障害を神経メカニズムから把把握し、その症例に合わせたリハビリテーションを導入していく必要があると改めて学ぶいい機会となりました。また、今回学んだこ

研 修 会 風 景

とを早速臨床の場面に活かし、より質の高いリハビリテーションを提供できるように日々鑽していきたいと思います。

生涯学習研修会「必須研修1」に参加して

厚生連高岡病院　西田　武紘

今回、平成29年７月９日に厚生連高岡病院にて開催された生涯学習研修会「必須研修1」に参加させて頂きました。今回の研修では、倫理や法律、リスクマネジメント、生涯学習について理学療法士として働く上で知っておくべきことが多く含まれていました。その中でも特に、自身に関係が強いと感じた講演はリスクマネジメントについての講演です。現在、私は急性期病院で働かせて頂いており、日々働く中でひやりとした経験は何度かありました。リスクマネジメントについての講演を聞き、急性期病院に限らず一年目の理学療法士として事故を起こさないためにリスク管理を十分に行うことが大切であると感じました。徐々に業務に慣れを感じ始め、肩の力が抜けてきた頃にそういった事が起きてしまう可能性が高まると思うので、担当させて頂く患者様の性格や介助量を見定める技術を身に着けることが必要だと感じました。しかし、今後の人生の中でどれだけ十分に注意していたとしても起きてしまうことがあると思います。そういった時の対応を的確に行えるような冷静さと知識を身につける必要性もあると感じました。その他に、生涯学習システムについての講演では、新人教育プログラムからその後の流れについて学ばせて頂きました。今後は可能な限り早期に新人教育プログラムを履修、修得し、自身の興味のある分野へと進み自己研鑽していきたいと思います。そのためにも、まずは生涯学習の必要性や求められている理学療法士像を認識していくことが大切なのだと感じました。

研修会風景

運動器研究会スポーツ班主催研修会

きたがわ整形外科医院　森　悠季

平成28年７月12日に八尾総合病院にて運動器研究会スポーツ班主催の研修会が開催されました。今回は、『スポーツ現場におけるテーピング技術』のテーマのもと、富山県立中央病院の南塚正光先生に講義をしていただきました。

はじめに、テーピングの目的やテープの種類、テーピング前後に行う評価・効果判定を実技を交えて教えていただきました。テーピングの考え方として固定の関節には固定系のテーピング、動きの関節にはファンクショナルテーピングといった、関節ごとで巻き方が異なる点や、テーピングを綺麗に巻

テーピング実技

けるだけでなく固定の強弱を選手の好みに合わせて対応することなど多くのことを学びました。テーピングの知識や技術に加え、選手とコミュニケーションをとって臨機応変に対応する重要性を感じました。

その後、各グループに分かれて、扇型のテーピングを行いました。テーピングの方向がずれると関節運動軸や筋機能に影響が出るので、練習が必要だと再認識しました。

臨床や富山県理学療法士会で行っているスポーツ支援事業で実際に選手を前にしても目的に合ったテーピングを巻けるよう今回の経験を活かしていきたいです。

講師の南塚 正光先生

理学療法士講習会（応用編）「運動の成り立ちとは何か」

厚生連高岡病院　林　竜三

平成29年７月15日～16日に、厚生連高岡病院にて、理学療法士講習会（応用編）「運動の成り立ちとは何か」が開催されました。講師は、株式会社BiNI Approachセンター代表の舟波真一先生、株式会社Physical Wave RESONANCE代表の山岸茂則先生をお招きし、アシスタントとして長野赤十字病院の荒井康祐先生、長野中央病院の森谷新太郎先生にもお越し下さいました。参加者は県内だけでなく、県外からも多数参加してくださり、37名の参加がありました。

この講習会は、「統合的運動生成概念」という講師の先生方が考案された考えに基づいて進められていきました。我々が運動を行う時には、決して筋に依存せず、慣性力や床反力などの様々な外力を巧みに利用し非常にリズミカルに行われていること、そのために腹圧がしっかり効いていることの必要性について詳しく解説してくださいました。そして、これらのことを実技を通して体験することができました。

実技では、「うつ伏せになり体を揺らす」、「両踵から頭部へ交互に刺激を入れる」といった簡単な刺激で腹圧は向上すること、逆に、アウターマッスルの過剰収縮によって腹圧は容易に低下することを、並進バランステストで通してその効果を実感することができました。

実技で説明する山岸 茂則先生

脳幹への刺激や、慣性力や床反力を考慮すること、αモーターニューロンの賦活など、パフォーマンスを向上させるための様々な治療を提案して頂きました。

実技で説明する舟波 真一先生

先生方は、膨大な知見から導き出されたことを臨床で実践しており、日々研鑽を怠っておらず、「クライアントを治したい」という熱い思いを私たちに伝えてくれました。先生方のように患者さんと真摯に向き合っていかなければならないと感じました。

運動器研修会を開催して
『足部疾患の治療展開～医師・理学療法士からの見解～』

運動器研究会　代表　**野上　静恵**

平成29年８月５日にサンシップとやまにて運動器研修会を開催し、県内の理学療法士60名近くの参加がありました。今回は『足部疾患の治療展開～医師・理学療法士からの見解～』をテーマに３名の医師・理学療法士の方々にご講演いただきました。

はじめに、八尾総合病院の理学療法士柴田麻衣子先生より『足部の解剖学』についてお話していただきました。足部の機能解剖について基本的なことから運動療法をする上で必要なポイントまでの幅広い内容でした。

次に、富山県立中央病院整形外科の丸箸兆延先生より『スポーツ外傷・障害の治療と予防』についてお話していただきました。医師の診断には様々な評価や情報が含まれているため、診断を基にリハビリを行う私達にも多くの知識を求められことを感じました。手術に関する話やリハビリアプローチに直結するようなトレーニング方法や予防方法など、大変勉強になりました。

最後に、富山県リハビリテーション病院・こども支援センターの理学療法士 梅野晃先生より『運動連鎖から考える理学療法』についてご講演いただきました。理学療法士にとって必要不可欠な技術の一つである動作分析のポイントを分かり易く解説していただきました。症例の動画も多く呈示していただき、臨床場面もイメージしやすく、多くのことを学ばせていただきました。

講師の梅野 晃先生

参加者アンケートでは『幅広い内容で多くを学ぶことができた』『医師から話を聞く事がなかなかできないので貴重な体験となった』『臨床的な話がたくさん聞けてよかった』との声が聞かれ、大変好評でした。

この場をお借りし、お忙しい中講師を引き受けてくださった先生方、参加してくださった多くの理学療法士の方々に深謝致します。

運動器研修会では今後も様々な研修会を企画していきます。また定期勉強会も毎月実施しています。興味ある方はご参加ください。

スポーツ支援事業部　高校野球・高校バレーサポート報告

スポーツ支援事業部　部長　**梅野　晃**

今年度のスポーツ支援事業部の高校野球・高校バレーサポート活動が始まりました。高校野球のサポートは、春季富山県高等学校野球大会では４月22日(土)・23日(日)の２日間、２会場でサポート活動を行いました。春季大会では１会場２名の理学療法士が１回戦・２回戦に関わり試合後のストレッチ指導を行いました。ストレッチを通じてそれぞれのストレッチの目的や意義などの説明や次の大会に向けて選手から個別相談を受れるような活動を行いました。

ストレッチ風景(野球)

高校バレーボールのサポートは、春季大会では４月23日(日)・

29日(土)・30日(日)の３日間、４会場での大会サポートを１会場２名から４名の理学療法士でサポートを行いました。高等学校総合体育大会は、５月28日(土)・６月３日(日)・４日(金)の３日間、５会場での大会サポートを１会場１～３名の理学療法士でサポートを行いました。バレーボールのサポートは、障害予防や障害部位の悪化予防を目的にテーピングが必要な選手へのテーピングの実施を中心に行っています。これらの活動は県士会員の皆様の協力で成り立っています。今後も皆様のご協力をよろしくお願いします。次回、野球は秋季大会、バレーボールは春高バレー予選、10月29日には富山マラソンのサポートを予定しています。
県士会員の皆様のご協力をよろしくお願いします。

テーピング風景(バレー)

物理療法研修会「創傷ケアの最先端」

物理療法研究会　代表　**石橋　信志**

平成29年８月20日(日)に富山市民病院にて、「創傷ケアの最先端」と題し、「DESIGN-R」を開発された東京大学大学院医学研究科老年看護学/創傷看護学分野の真田弘美先生、理学療法士の立場から褥瘡ケアに携わっておられる株式会社アバンサール代表取締役の吉川義之先生をお招きし創傷ケアの最先端のエビデンス、及び物理療法の実践について、訪問診療でも実施できる電気刺激療法のハンズオンセミナーを開催し、41名（理学療法士、作業療法士、看護師、介護士、学生）の方に参加していただきました。

スキンテアの
真田 弘美先生

真田先生の講義の中で「スキンテア」の概念はハッとさせられる内容でした。スキンテアとは摩擦やずれにより発生する外傷性創傷を指し、医療従事者が引き起こす可能性があることを再認識させられました。またエコーによる「DTI：deep tissue injury（深部損傷褥瘡)」の可視化や体圧センサー搭載寝具の開発など、まさに創傷ケアの最先端のお話を受講者の方々は食い入るように聞いておられました。

午後の吉川先生によるハンズオンセミナーでは、前半は創傷治癒のメカニズムから微弱電流刺激療法（マイクロカレント）による創の縮小効果などのデータを提示、さらに褥瘡有病者に対するポジショニングや関節の動かし方など、研修会翌日からでも実践できる内容でした。後半は㈱伊藤超短波様、㈱インターリハ様から多数の機器をお借りすることができ、創の洗浄からマイクロカレント使用までの一連の流れを参加者全員が体験できる内容した。創の洗浄においては吉川先生とともに真田先生も熱心に指導され、また受講者の方々もそれに応えるように積極的に質問されるなど、大変有意義な時間になったと思われます。

ハンズオンセミナーの吉川 義之先生

褥瘡と聞けば、医師や看護師に任せきりになる傾向があると思いますが、理学療法士も積極的に創傷ケアに介入できる物理療法は我々にとって大きな武器の一つになると感じました。物理療法の使用頻度は全国的に少なく、エビデンスレベルも上がらない傾向にあります。今後も物理療法の普及に研究会として努めていきたいと思います。

地区連絡会だより

富山北部地区

平成29年度 第1回富山北部地区連絡会

富山北部地区連絡会　代表　**梅野　　晃**

平成29年6月9日(金)に富山県リハビリテーション病院・こども支援センターにおいて平成29年度の第1回の北部地区連絡会を行いました。今回の連絡会では、平成30年度の富山県学会が北部地区の担当ということで富山県学会に関して話し合いの場を持ちました。8施設39名の方に参加して頂きました。

来年度の富山県学会はアルペンリハビリテーション病院の竹中誠先生が大会長を務められます。多くの方の参加をお待ちしております。

高岡地区

高岡地区新人歓迎会に参加して

済生会高岡病院　**浅井　創太郎**

平成29年6月16日(金)に高岡地区連絡会の活動の一環で新人歓迎会に参加させていただきました。今年は7施設から33名(新人8名)が参加されました。

私は今年度から理学療法士として済生会高岡病院に入社し、この高岡地区連絡会への参加も初めてでした。そのため、会場に入り席に着くと周りは初めてお会いする先生ばかりでとても緊張していました。

会は乾杯後、しばらく歓談の時間があり、そこで多くの先生方が話しかけてくださり、徐々に自分の緊張も解けていきました。日常会話だけでなく、普段お聞きすることができない各病院の情報など様々な内容で盛り上がっていたように思えます。また先生方と連絡の交換もさせていただき、同じ高岡地区同士での繋がりができたことをうれしく思います。

歓迎会風景

時間はあっという間に流れ、楽しく有意義な時間を過ごすことができました。

私はこれから理学療法士として技術を磨いていく中で、このような交流会にも積極的に参加し、高岡地区での繋がりを大切にしていきたいと感じました。

高岡地区連絡会研修会を開催して「リハビリテーションと栄養」について

高岡地区連絡会　代表　**水上　正樹**

平成29年7月20日(木)、高岡市民病院講義室において平成29年度高岡地区連絡会の研修会を開催しました。研修会内容は「リハビリテーションと栄養」～栄養からリハを変える～と題して、森永乳業病態栄養部門 株式会社クリニコの植出 悠紀氏をお招きしてご講演して頂きました。サルコペニアの説明から、リハ患者およびリハ病棟患者には低栄養の方が多いといったお話から始まり、リハ栄養の必要性について詳しく説明して頂きました。また実際に栄養補助食品の試飲・試食をさせて頂く機会を得ることができました。我々はリハビリテーションを提供する際に、リハで消費するエネルギー量をどれだけ考えたことがあるでしょうか？栄養状態が良好である方がリハ効果は良いと理解しているつもりですが、リハ患者には低栄養の方が多いといったお話には改めて衝撃を受けました。

また実際の臨床場面での栄養に対する活動報告として、当事業所の通所リハ利用者への栄養面への取り組みについて、低栄養利用者に対して栄養補助食品の導入に至った一症例を報告させて頂きました。栄養補助食品を継続して使用して頂くためには、本人および家族の理解・受け入れ・実行が重要であり、今回の研修会を通して栄養面についてさらに知識を養うことの必要性を感じました。

研修会風景

他の病院や施設における栄養に対する取り組みとして、栄養サポートチーム（Nutrition Support Team：NST）に関わり多職種で栄養に対する活動を行っているが、臨床現場との情報交換の不足のため十分に関われていないとの意見や、経口維持加算を算定するため多職種と毎月、経口維持会議を実施しているが、嚥下機能に問題のある方や拒食の方、水分摂取を嫌う方など多くの問題があるとの意見がありました。その中でリハビリテーションによる身体機能および動作能力の向上を目指すのは勿論のこと、ADLやQOL向上のためには栄養に対する理解・再確認ができたよい機会だったと思います。

今回の研修会は14施設41名の先生方が参加して頂き、普段より多くの施設・先生方に参加して頂きました。また今回の研修会では若い先生方の参加が増えた印象を受けました。今年度の高岡地区連絡会では、今まで以上に「参加施設・参加者を増やしたい」「顔のみえる関係をさらに広げたい」といった想いから、企画の段階から役員と意見交換・調整を行い活動しています。

今後とも、地区連絡会の活動に対するご理解・ご協力のほど、よろしくお願いします。

富山南部地区

平成 29 年度 第 1 回富山南部地区連絡会

富山南部地区　代表　**浦上　孝徳**

今年度から、富山南部地区代表を務めさせていただきます、友愛温泉病院の浦上です。よろしくお願いします。

平成 29 年 7 月 18 日(火)、八尾総合病院にて平成 29 年度第 1 回富山南部地区連絡会を開催しました。内容は、①富山南部地区の新人士会員の紹介、②各施設の職場紹介（大沢野クリニック、流杉病院、富山西総合病院・富山西リハビリテーション病院、介護老人保健施設豊佳苑、訪問看護ステーションさわやか)、③近況報告・情報交換会を行いました。

参加者は 10 施設 30 人と多数の施設からご参加いただきました。職場紹介では、各施設の概要や特徴、現在の取り組みなどを共有することができました。発表者との意見交換も活発に行われ、富山南部地区内の繋がりをより深められたのではないかと思っています。

新人士会員の皆さんには、県士会および富山南部地区の活動への積極的な参加と協力を是非お願いしたいと思います。新人らしい若さと行動力で、一緒に県士会と富山南部地区を盛り上げていきましょう。

第 2 回の連絡会は、11 月に開催する予定ですので、多数の参加をお待ちしています。

連絡会風景

新 入 紹 介

リレーエッセイ

山に登る楽しさ

島田病院　**酒井　春行**

皆さんこんにちは。今回リレーエッセイを担当いたします島田病院の酒井です。

私の趣味である登山に関して書かせて頂きたいと思います。私が登山を始めたのは今から 10 年程前です。それまでは全く興味なく、なぜ山に登るのだろう？山登りの何が楽しいのだろう？ただ疲れるだけではないか？と思っていました。

最初は娘が 3 歳になるのを機に、立山（雄山）を目指しましたが、悪天候にみまわれ三ノ越で下山しました。そして嵐の中であったため、２度と登りたいとは思いませんでした。そんな私に転機が訪れたのは翌年。強引な妻に押され、もう一度登ることに…。気分はのらず憂鬱でした。しかし、この時は前回と違って快晴で、高度を上げる毎に今まで見たことがない様な景色が見えてきました。そして、頂上から見た富山湾・富山平野・北アルプスの峰々の、何とも言えない素晴らしい景色に感動を覚えました。これが「山に登る楽しさなのだ」と感じました。それ以降は家族で日本全国の山に登りに行っています。

娘は登山で文句を言ったことがありません。それは、すれ違う方が『小さいのに頑張っているね』『すごい、えらいね』等と、娘を褒めて下さったお陰だと思っています。褒められることで娘はモチベーションを上げ、山に行くことが楽しかったのだと思います。中学生になった今も、そこで培った自信を胸に日々突き進んでいます。人にとって頑張ったことに対する賞賛がいかに大切か、親として理学療法士として実感しています。

最後に私の近況について。今まではピークハントすることが目的でしたが、昨年からはそこに高山植物を見ることが加わりました。目標の高山植物はどこに咲いているかわからないため、お宝を探す感覚で、見つけた時はとても嬉しくなります。花は似ている物が多く、葉の付き方・葉の形・花の形等で見分けます。まだ、知らない花が沢山あり、１つずつ知る事がとても楽しいです。この様な趣味をくれた富山県と家族に感謝・感謝・感謝です。

編集後記

- もうすぐ誕生日です。平成から年号が変わると、一段と自分の歳がわからなくなります。（は）
- 今年は車焼けで右側の顔と腕がこんがり焼けてしまいました。（Y）
- 子供が産まれて半年になりました。日々成長が楽しみです。（S.U）
- 今年の夏は、雨が多かった印象がありました。暑い夏が恋しくなりました。（H.S）
- 今年の夏・秋は山尽くしです。（T）
- 毎年、体力の低下を実感しているこの頃です。『スポーツの秋』今年こそは、体力維持を最大目標に…。（T.I）
- 今年の秋は読書の秋を楽しみたいと思います。（Y）
- 花火大会、スイカ割りなど楽しい夏が終わりました。秋は何があるか楽しみです。（A）

2017．9．30
一般社団法人　富山県理学療法士会
〒936-0023 富山県滑川市柳原149-9
富山医療福祉専門学校
理学療法学科 内
☎(076) 476－1716
発行人：堀　尾　欣　三
編　集：荒　木　悦　子
印　刷：志　貴　野　苑
士会ＵＲＬ:http://toyamapt.umin.ne.jp/
事務局アドレス:toyamapt-office@umin.ac.jp